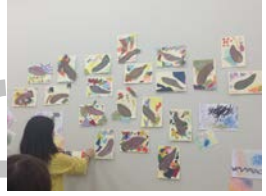
ありがとうございました



♡松尾ゼミ♡

ワークアートショップ感想（３年生）

（山本　茉由佳）

さつまいもで何をするんだろう…？と思いながら教室にきたけれど、音楽を聴いてリラックスしながら、楽しくできました！内容の説明をしていただいて、絵がすごく得意なわけでもないから大丈夫かな、と少し不安でしたが、やりはじめると本当に楽しくできました。白い紙に描いた作品も、最後のさつまいもを描いた作品も、全員のものを見比べても同じ作品がなくて、それぞれの個性があふれていて見ているだけでも楽しかったです。最初に白い紙に絵を描いたとき、同じお題に対して絵を描いたのに、選んだ色もそれぞれの絵の位置や大きさもさまざまで、みんなそれぞれの感じ方があるんだと思いました。さつまいもを描いたときは、最初に同じ色を選んでもそれぞれの色の重ね方があって、和紙の選び方も様々で、みんなの作品を見て感想を言い合うのも面白かったです。絵を通してその人のことを理解することにつながることがわかって、新しい世界が開いた気がします。同じテーマでほかの人と絵を描きあって、話をするのもとても楽しいと思いました！クレヨンを使って絵を描いたり、自分の描いた絵を教室に張り出したりするのは久しぶりで、ちょっと童心に帰ったような気がしました。絵を通したコミュニケーションがこんなに楽しくできることがわかって、すごく素敵な経験ができました。ありがとうございました。

（阿部 悠）

杉山さんへ

先日は、ワークショップをしていただいてありがとうございました。自分の思うままにクレヨンを動かすというのは、幼稚園以来したことがなかったので、とても新鮮でリラックスした時間を過ごすことができました。年を取るにつれて周りと比べたり、周りより上手くやりたいと思うようになっていましたが、完成形や正解がないというのは、頭で考えてしまうこともなく、楽しかったです。どんな作品を作ってもどこかしらの良い点を見つけてくださって、私もそんな風に友人や家族、これから出会う人のことを見ることができたらいいなと思います。また、杉山さんの経歴をお聞きして、常にいろんなことや人に視点を置き、新しいことに挑戦していらっしゃる姿勢にとても尊敬しました。このワークショップを通じて、大学での授業では得られない大切なものをたくさん得られて気がします。本当にありがとうございました。

自由な表現で自由な自分へ

（五十嵐 史子）

臨床美術のワークショップ、とてもたのしく参加させていただきました！現在私はグラフィックデザインの勉強をしており、上手くは描けないのですがよくイラストを描いたりします。上手く見える構図はこうとか可愛く見える色合いはこうとか、時にはモデルさんの肌のシミを消したりして時々「こんなの全然自由じゃない！」とがっかりしてしまうときもあります。好きと仕事は違うのだと身をもって感じてしまうのもしょっちゅうです。 今回の杉山さんのワークショップで久しぶりに自由に絵を描きました。スーパーで買ったさつまいもをあんなに大事に観察し何度も感触を確かめたのは初めての経験だと思います。そういえば小さい頃は海で拾った貝殻のごつごつした感触や和室の畳のにおいとかそういうものに触れていたのだと気付きました。今は化粧して香水を付けて型にはまったような服を着て電車に乗るという毎日でそんなことをする暇も、ましてやちゃんと寝る暇もない生活を送っています。描いたさつまいもの絵を家に帰って母親に見せてすごいねと一言貰って、こういう他愛のないやり取りが自分を活性化させているのだと感じました。デザインの作品として見せることはよくありますが自分が自由にやったものをほめてもらえるのは格別で初心に帰ったように思います。認知症の人や発達に遅れのある子供たちが生き生きするのはきっと同じ感覚なのではないかと納得しました。杉山さんのような美術の楽しさを教える仕事はとても尊敬するし、こういう職業はみんなを幸せにすると実感しました。私も臨床美術について興味が湧き大変すてきな経験となりました。お忙しい中お越しいただきありがとうございました！

（買手　優希）

先日はお忙しい中、ワークショップを開いて下さってありがとうございました。終始、和やかな雰囲気でとても有意義な時間でした。印象に残ったのは、自分の感情を文字や記号やイラストではなく、点や線で表したことでした。この作業をすることによって、さつまいもに取り掛かった時も、自分の気持ちを素直に表すことができました。自分の用意したさつまいもが、まさかあのような形で作品になるとは思っていませんでした。出来上がった作品は1人1人味があって、個性豊かで、どれも素敵でした。子どもの頃に戻ったかのような、純粋な気持ちを取り戻すことができた気がします。また機会があればぜひお会いしたいです。本当にありがとうございました。

（長谷部　真貴）

先日は臨床美術の貴重な体験の機会をいただき、ありがとうございました。美術は苦手でしたが、楽しんでワークショップに参加することができました。自分の表現したいものを自由に表現でき、高校の美術の授業のように採点され成績を付けられない点がとても親しみやすかったです。出来上がった作品を一人一人丁寧に良いところをコメントしていた場面が印象的でした。自身の作品が褒められると、自分の気持ちが受け入れられたような感じがしてポジティブな気持ちになりました。また、別の講演会にてすべてひらがなで書かれている「やさしい日本語」の新聞を知的障害者の方が執筆していると聞き、言語的に不自由な人にとって自分の考えを表現する場がとても大切なことであると知りました。そして、障害者と健常者が臨床美術を通して対等に自分の意見を表現できるのではないかと考えました。臨床美術をもっとたくさんの人に知ってもらい、互いの考えを自由に表現し合う場を広めるべきだと思いました。

（薄井　舞子）

何個ものさつまいもを手に取り、戻すという行為を何度も繰り返したワークショップ前日。まさかこんなに一つのさつまいもを見つめ、触り、感じ、描くとは思いませんでした。先生は私達をゼミという団体ではなく、1 人ひとりへ言葉をかけてくださり、私はそれがとてもうれしかったです。私も集団の中で活動する時に先生のように 1 人ひとりに注目し、個性に気付けるような人になりたいと思いました。私は、さつまいもを描いている最中、自然と人と同じようなものでなく、自分らしさを表現したいと強く思いました。集団で同じものを描くという行為によって自分らしさに向き合い、また自分を表現したいと思う気持ちに気が付くことができました。自分を見つめ直したり、分析することは難しいですが、私は一つのさつまいもと先生のおかげで自分の思いに気付けることができました。貴重なお時間ありがとうございました。

（富井　遥）

先日は素敵なワークショップを開催していただき、ありがとうございました。「臨床美術」という言葉も、実は今回初めて耳にいたしました。始まる前は、「臨床美術って、普通に絵を描くことと、何が違うんだろう？」「昔から美的センスはからっきしだけれど、大丈夫かな？」など、期待半分、不安が半分という思いでした。今朝の気分の表現、怒ったり、悲しかったりという感情の表現を、クレヨン一本で描くことからはじまり、なんだか童心に帰ったような、懐かしい気持ちで夢中になって描くことができました。難しくごちゃごちゃ考えずに、直観に頼ることが大事なんだなと、感じました。抽象的なものを、目に見える形に表すことで、あ、自分の頭の中ってこんなふうになってるのかな、と、新しい発見があって、とても不思議な感覚を味わうことができました。また、さつまいもを使った作品の制作では、輪郭から描くという形から入るやり方ではなくて、中身から「育てていく」という、目からうろこの描き方を教えていただき、本当にこれでさつまいもが完成するのか？と不安に思っていたのですが、終わって見てみると、本当に本物のさつまいものような作品ができあがって、自分でもびっくりしてしまいました。絵は苦手、芸術的なセンスもないし、乗り気がしないなあと思ってしまったことも実はあったのですが、そんな私でもこんなに素敵な作品が作れるんだという、自信にも繋がりました。また、私が一番感激したのは、先生が一人一人の作品のよいところを言ってくださったことです。時間も限られているなかで、なかなか自分の納得のいく作品に仕上げることができず、なんだかうまく完成できなかったなあ、こんなの人前にだせないわ、と悲しく思っていたのですが、先生に、私の作品のよいところを教えていただいたり、人と違うからダメだ、と思っていた部分が、逆に人と発想が違っていていいねと言っていただいたり、また新しい自分の側面を見つけたような新鮮な気分になりました。こ今回のワークショップを通して、いつも自分が思っている自分とはちょっと違う別の自分もいるんだろうと思うことができましたし、視野が広がったような気がします。型破りは悪いことじゃないんだということも今後念頭に置いていきたいと思いました。限られた時間でありましたが、とても楽しく有意義な時間を過ごさせていただきました。本当にどうもありがとうございました。

（堀口　友莉夏）

杉山さんへ

先日はワークショップに来ていただいて、ありがとうございました。わたしは「美術」というものに取り組むのは中学生のころ以来だったので、とてもワクワクして臨みました。正直、絵を描くのは得意ではないのですが、「上手く描こうとしなくていい、自由に描いてみて」と言っていただいて、思いきって「怒った気持ち」や「悲しい気持ち」を表現できました。久々に触るクレヨンのような感触も懐かしくて、なんだか嬉しい気持ちになりながら取り組んでいました。さつまいものデッサンでは、さつまいもの中身から描くという新しい手順で、中身の色、皮の色をよく考えながら使う色を選ぶのも楽しかったです。出来上がったみんなの作品を見てみると、さつまいもの形、色もそれぞれに違うし、画用紙などを使うデザインも、それぞれの味があっておもしろいなぁと思いました。作業に夢中になって、最後には終わってしまうのが惜しいほど楽しみました。本当に楽しい時間をありがとうございました。

（針山　愛梨）

こんにちは。東京女子大学現代教養学部人間科学科言語科学専攻三年の針山愛梨と申します。この間は東京女子大学まで来て、授業をして頂きまして、本当にありがとうございました。

「サツマイモを持ってきてくれ」と松尾先生から言われた時、何をするんだろう、とドキドキしながら色々な考えを巡らせていましたが、その想像していたことのどれとも違う内容に驚かされつつも、本当に楽しい時間を過ごさせて頂きました。絵を書くということ自体が中学生以来だったので初めは戸惑うことも多々ありましたが、先生が優しく丁寧に説明して下さったので、落ち着いて取り組むことが出来ました。そして、小学校や中学校では、テーマが与えられてそのテーマにそって絵を書くという課題がほとんどであったので、自分の感情を絵に表したのは人生で初めての経験でした。なかなか自分の感情をあらわにすることが難しくなってくる年齢に差し掛かっているこの時にこういった機会に巡り合えたのを本当に嬉しく思います。これから長い人生、様々な思いをすることがあると思います。自分の感情を上手く表せなくて苦しい時、思い出したいと思います。本当にありがとうございました。

（谷口　理絵）

先日はお越しいただきありがとうございました。とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。最初は何をするのだろうとわくわくしていましたが、予想外のことばかりだった上に想像していた以上に楽しいことばかりでした。大学に入ってからは美術の授業もなく、手を汚しながら絵を描くということを全くしていなかったので久々でとても楽しかったです。絵を描くこと以外に点や線、面で感情を表現するといったことは今までにしたことがなかったので新鮮でした。あと、オイルパステルを使ったのも初めてだったのでこれもまた新鮮でした。さつま芋も何に使うのだろう、ハンコを作るのかなあと思いながら家から持ってきましたが、良い意味で予想を裏切られました。絵を描くときに、輪郭からではなく中から描くということは初めての体験だったし考えもしなかったことだったので、それで本当に絵が描けるのか、描きづらくはないのか、と最初は思っていましたがどんどん完成していく絵を見てとても嬉しく思いました。最終的に芋の絵が完成して、周りも飾って全員の絵を貼ったのを見て、嬉しい気持ちと満足感ができました。アートに触れるということを久しぶりにしたし、初めてすることばかりだったので本当に楽しい時間が過ごせ、またやりたいと思いました。本当にありがとうございました。とても楽しかったです。

（塩原　桜）

先日はワークショップの講師として松尾ゼミにお越しいただき、ありがとうございました。私は今まで「絵を描く」ということが苦手で、ワークショップが始まり、クレヨンが目の前におかれたときはドキッとしました。しかし、終わってみるとあっという間で、もっと描きたい！と思うほど楽しい時間でした。今回のワークショップまで、臨床美術士ということばを聞いたことがなく、これをきっかけに臨床美術士について少し調べてみました。こういう資格があることにも驚きましたが、美術などの芸術分野で、様々な医療や介護面での療法があることにも驚きました。実際に絵を描いてみて、素直に楽しいと思えたことがとても自分で意外でした。描いた絵を見せあったり、お芋自体に愛着がわいたり、また、同じ机で絵を描いていた 4 年生とも自然と話すことができたりと、良いことばかりでした。また、導入部分で、同じものを描くようにいわれているのに全員の絵が全く違っていたことがとても印象的でした。（太陽や星や月、といっても捉え方がみんな違うということなのでしょう。）モチーフとなるサツマイモも、選び方や描き方、飾り方まで十人十色の絵が完成し、すべてを壁に貼り出した際は思わず歓声をあげてしまいました。杉山さんがひとりひとりの絵について触れてくださっているときにも、他の人から「○○だとおもう！」「～～みたい！」という声が上がり、最後のフィードバックまで非常に面白い体験をすることができました。貴重な機会を頂けたこと、嬉しく思っています。こういった活動があるということをもっと広めたいと思いました。授業時間内の短い時間ではありましたが、本当にありがとうございました。

（大内　志穂）

先日はワークショップを開いてくださってありがとうございました。事前に気に入った形のさつまいもを持参すると聞いて、一体何を作るのか、さつまいもを掘ってはんこを作るのかと色々考えを巡らせていました。実際に出来上がったさつまいもの絵を見て、絵が下手な私でも本物そっくりなさつまいもの絵がかけたことに感動しました。またたくさん人数がいる中、一人一人の作品の感想を杉山先生が述べてくださったことで全員の絵を様々な視点で見ることができました。それぞれの個性が表れていて、まだゼミが始まって２ヶ月ほどしかたっていなかったのでまた一つみんなのことを知るきっかけになったと思いました。今回体験したようなワークショップは様々な機会に行われているそうで、杉山先生が述べてくださったなかに失語症のリハビリがありとても印象に残りました。私は失語症やそのリハビリに興味があるのですが、リハビリの見学をした際に絵を書く、歌をうたうなどたくさんの方法が使われていたことをおぼえています。今回のワークショップではただ絵をかくのではなく最後まで何ができるのかわからないところが最も驚いたし楽しいと思いました。このようなリハビリがもっと広まって欲しいと思いました。

（山口　志保里）

・　さつまいもを持ってくるように言われたとき、ワークショップでは一体何をするのだろうと予想もつかなかった。なぜにんじんやじゃがいもではなくさつまいもなのか、ワークショップの後さつまいもについて色々考えた。紫色に深みがあるから、でこぼこしていたりつるつるしていたり、大きさも様々だから、傷がついていたり同じような形がなかなか無いような野菜だから…？私は絵を描くのは苦手だったけれど、なぜかワークショップのときはそんなことも忘れて、ただ目の前にあるさつまいもを真剣に眺め、何も考えずに描いていたことに気付いた。出来上がった自分のさつまいもは何だかなすみたいだったけれど、そんな私のさつまいもを見て杉山さんは細かいところまで褒めてくださったことが嬉しかった。どんなさつまいもを描いても良いのだと思った。同じ形のさつまいもが無いのと同じように、私たちが描いたさつまいもも、世界に一つしかないのだと思うと、自分の描いたなすのようなさつまいものことも好きになれた。短い時間でしたが、充実していて楽しい時間をありがとうございました。

（針場　理加）

杉山さん、先日はお忙しいところ、ワークショップの活動に参加させていただき、ありがとうございました。私は子供のころから絵を描くことが大の苦手で、いつも絵を描くことに抵抗がありました。今回、絵に苦手意識がある人でも上手に絵を描ける企画ということで、私でも大丈夫かな？と少々緊張しながらの参加でしたが、結果参加してみて本当に良かったと感じています。あんなに絵を苦手といていた私が、自分の作品とは思えないほど上手にさつまいもの絵を完成させることが出来ました。大変有意義でしたし、貴重な体験でした。また前半に行った、自分の感情をクレヨンで表現する活動では、絵を描くことに対する抵抗感が減少しました。気張らずに、感じたことをそのままクレヨンに乗せるだけでもまるで芸術のような作品ができあがったときのことは本当に感動です。

また機会がありましたら、ぜひぜひ参加させてください。今回は本当にありがとうございました。

（本間　小百合）

杉山さん

先日は臨床美術のワークショップを開いて頂きありがとうございました。「臨床美術って何？」から始まった私でしたが、たったの 90 分で臨床美術のおもしろさを肌で体感出来ました。感じたことを、手を使って、目を使って、そして心を使って思うがままに自由に描くというのは難しいように思われますが、やってみると意外にも出来てしまうものなのですね。驚きました。立体物を外側から描くのではなく、内側から描いていくというのはやったことがなくて、ちゃんと形になるのか疑っていましたが、本当に不思議なことに、いつのまにか一つの形として私の目の前に現れてきました、さつまいもが描けていたのです。大学生になってから絵を描く事なんて無縁だった私ですが、あの 90 分は本当にあっという間で、時間を忘れる程でした。きっと没頭していたのだと思います。

絵を描いている時はとても気持ちが落ち着いていたし、一度心を無にすることも出来ました。臨床美術は人の心を動かす事が出来るのですね。感動しました。もっともっと沢山の人が臨床美術のことを知って、そして体験出来たらいいのにと私は思いました。今回のワークショップは本当に貴重な経験であり、とても思い出になりました。本当にありがとうございました。

（宮内　彩加）

先日は楽しいワークショップありがとうございました。わたしは美術や絵画が大好きなので今回のワークショップをとても楽しみにしていました。松尾先生から絵が苦手でも楽しめると伺っていたので、どんなことをするんだろうと始まるまでずっとわくわくしていました。

いざ描き始めてみるとあんまりにも楽しくって時間を忘れてしまうくらい熱中してしまいました。最近は手を動かすといえばシャーペンを手に持って文字を書くことばかりだったので、オイルパステルで手が汚れてしまうのも紙を手で千切ることもとても新鮮でした。小さい頃はそういうことばかりしていたのにいつから絵を描かなくなってしまったんでしょう。小さい頃に戻ったような気持ちになりました。オイルパステルが専用のものだったのが驚きでした。普通のものと専用のものとどのように違うのでしょう？書きやすいとか、発色が良いのでしょうか？このパステルのために作ったとおっしゃっていた緑色のパステルの色がとてもきれいな色でお気に入りでした。

今回のワークショップを終えて勉強以外でたくさん手を動かしたいと思いました。絵を描いたり、手芸をしたり、自分がかつて大好きだったことをもう一度やってみたい気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

（吉川　愛美）

杉山さん、先日はお忙しい中、東京女子大学までお越し頂きありがとうございました。「絵を書くのが元々大好き」と唯一手を上げていた吉川と申します。ワーク自体も勿論楽しかったのですが、さつまいもの用意をしている時に、「ハンコに使うんだろうか」、「さつまいも自体に何か塗るんだろうか」など、様々な想像をしていまして、実はそのどれでもなかったですが、その時間も凄く楽しかったです。ワークは、感情を感性で色付けるものと、メインのさつまいもを描くものとありましたが、そのどちらもが初めてで凄く新鮮でした。さつまいもを描くことに関しては特に、「こんな手法があるのか」と思いました。内側の内側から色を付けてゆくこと、必ずしも目に見える色だけでなく表現すること(青など)、そしてベースを書き上げてから切り取るなど、全てが新鮮でしたし、最後の「さつまいもにおしゃれさせてみよう」も、無造作に貼り付けた和紙や紙が、まるで確かにそこにあるのが当然のような状態を作り出し、形は違えど同じ「さつまいも」なのに各々のさつまいもに個性が出たような感覚が私には感じられ、面白かったです。今回は本当にありがとうございました。

ワークアートショップ感想（4年生）

（森岡　愛）

先日はワークショップを開いて頂きありがとうございました。さつまいもを持ってきてくださいと言われた時、一体何をするんだろうと検討もつきませんでしたが、小学校以来のわくわく感がありました。当日はさつまいもを感じるところから始まりました。心の思うままに絵を描き、さつまいもを触って感じて日常を忘れるくらい没頭しました。出来上がった作品は本当に「さつまいも」でした。壁に貼ってみるとみんな全く違うでもさつまいもに見える作品ができていて、不思議だなと思いました。心に残っていることとして、杉山さんが私たち一人一人に丁寧にメッセージをかけてくれたことです。作品を描いて終わりではなく、私たちがどんな気持ちでその絵を描いたのか、細かく感じ取ってくれました。私はさつまいもの向きを縦にするか横にするかで迷っていて、結局横にしましたが、そのこだわりというか作品ができあがる過程も杉山さんは私の心に寄り添ってくれました。大学授業の枠を超えた貴重な体験だったと思います。臨床美術のもつ良さや素晴らしさを実感できたと同時に自分自身の素直な気持ちを出すことができました。これから社会人となり、忙しい毎日で心の余裕がなくなる時があるかもしれません。その時は自分の描いたさつまいもの作品を見て、今日のようなまっすぐな心を忘れないようにしたいと思います。本当にありがとうございました。

（濱嶋紗妃）

先日はお忙しい中、ワークショップを開催してくださり、ありがとうございました。

「臨床美術」という分野は、恥ずかしながらワークショップの当日に初めて知ったもので、当然、未体験のものでありました。松尾先生からは事前に「さつま芋を持ってきなさい。必ず実りのある体験ができる。」というお話しかうかがっていなかったため、授業が始まる前から、みんなでそわそわしておりました。

私は、演劇サークルで宣伝美術というチラシやポスターをつくる役割をしていたため、絵を描くことが好きです。絵を描く上で大切なことは、何よりも対象のカタチをとらえることだと教わってきました。なので、先日のワークショップで「さつま芋の中身から描きましょう」というお話を受けたときには目からウロコでした。臨床美術と絵を描くことは、厳密には違うことなのかもしれませんが、それ以上に衝撃を受けました。

さらに印象的だったのが、終始「リラックスして」とおっしゃられていたことです。絵を描くことは好きなのですが、好きなあまり自分の肩に大変な力が入っていることに気が付きました。人目や他人の評価を気にせず、自分の思ったままに筆を取るということの大切さに、気が付きま

した。これからも、卒業論文や就職活動などで行き詰まったりしたら、あのワークショップを思い出して、自由に筆を取ってみようと思います。当にありがとうございました。またお会いできることを楽しみにしております。

（冨永千晴）

先日は、臨床美術のアートワークショップを開いてくださりありがとうございました。自分の気持ちに任せて、好きな色で、好きなように描くことの楽しさに気づけました。
さつまいもを使った量感画では、真ん中に描いた点からさつまいもを育てていくように描きあげていく行程に驚きました。中身から描いたのに、最終的には皮の色を重ねるとさつまいもが飛び出してきたような感覚になりました。同じグループの子達と見比べたさつまいも、どれも色形が異なり個々人の感覚の違いに気づきました。
普段、どこか誰かと比べて自分を卑下しそうになるときがあります。でも、今回のワークショップを通じて自分の感性を楽しむことって、なんて素敵なんだろうと思えました。今回抱いたこの感覚を忘れずにいたいと思います。お忙しいなか、ありがとうございました。

（醍醐 慧）

こんばんは。先日は素敵な時間をありがとうございました。久しぶりに思いのまま絵を書いたりした気がします。自分の感情を紙に表すこと自体はおそらく初めてのことで少し難しくも感じましたがとても新鮮でした。このワークショップを通じて改めて人それぞれ感じるものは異なり、その表現の仕方も全く異なることが分かりました。とにかくとても楽しかったです。このような活動を通して少しでも困っている人達が何か糸口を見つけられたらいいなと思いました。お忙しい中、貴重なお時間を頂き本当にありがとうございました。

（関根早貴）

先日はワークショップを通じ、臨床美術という貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。今まで臨床美術については知りませんでした。どのようなことでも、自分の知らないことがまだまだ多くあるということ、知るということは自分の可能性が大きく広がるということに、今回の経験から改めて思いました。そして、このワークショップを経験し、幼いころに戻ったような、初心にかえった気分になりました。イモをスーパーで買う時、どんなイモがいいのか、あれほど真剣にイモと向き合ったのは初めてです。イモの中身から描き、徐々に仕上がっていくイモの姿には、驚きとわくわくとした楽しみな気持ちを持って取り組むことのできた貴重な経験でした。どれも印象的ではあったのですが、なかでもイモを描く前に行った、自分の気持ちを文字ではなく、イラストでもなく、点や線で気持ちのままに描くことは、とても難しく感じました。今まで生きてきて、いろんな知識を得て、いろんな経験をしてきて、それが活かされた部分もあれば、素直に直感で描くことの邪魔になることや、自然と自分の中で葛藤があったからです。完成された、感情とイモは皆それぞれ異なるもので、人の数だけ、表現方法や感情があるということを、思っているだけではなく、視覚から感じることができました。今回の経験で感じたこと、学んだことをこれからの人生に活かし、自分だけではなく、皆と共有していきたいと思っております。貴重なお話と経験をありがとうございました。

（前村　麻紀子）

この間は、さつまいものワークショップを有難うございました。臨床美術という言葉を聞いたのも初めてで、大変勉強になり、またとても楽しかったです。輪郭を書かずとも、さつまいもが描けることや、また皆でやることで、いろいろな個性あるさつまいものアートができ、とても楽しく良い経験になりました。また、感情のままに紙に線を書いたりするのは初めてで、また違った絵の書き方を知り、とても新鮮な気持ちでした。講師のみなさんが工夫してくださり、このような素敵な時間を過ごせました。遠いところから、東京女子大学までわざわざ来てくださり、本当に有難うございました。簡単ではありますが、まずはお礼とさせて頂きます。本当に有難うございました。

（赤荻さやか）

この度はさつま芋を使ったワークショップをやっていただきまして、本当にありがとうございます。一つ一つの活動に、それぞれ意味があり、かつ活動の連続性の中にもしっかりとした繋がりを感じました。そして、気づかなかった新しい自分を見つけることもできました。感情を表す活動には多少の抵抗感がありました。おそらく、自分自身をありのままに表現するのがあまり得意ではないのかなと思いました。ネガティブな面もポジティブな面も引っくるめて、自分だと思います。色々な気づきがある時間でした。ありがとうございました。

（米永さらさ）

先日は、基調な経験をさせていただきどうもありがとうございました。私はもともと絵を描いたり何かを作ることが大好きだったので、とても楽しむことができました。今回、始めて臨床美術という言葉を聞きましたが、ワークショップを通して特定の人だけでなく、どんな人でも同じように楽しめるものなのだなと感じました。機会がありましたら、実際に教育の現場でどのように使われているのかなど調べてみたいとおもいます。是非、またゼミ来て臨床美術のお話を聞かせて下さい！本当にありがとうございました。

（井上祐稀）

こんにちは。東京女子大学松尾ゼミ四年の井上祐稀と申します。先日はワークショップを開いていただきましてありがとうございました。ワークショップが始まるまで、何を行うかは秘密、とのことでしたので、ゼミ一同で「持ち物がさつまいもってことはイモ判かな？」などと、あれこれ思案しておりました。そして、当日開始してびっくり。臨床美術とは、私にとってはじめて耳にする言葉であったためです。最初は星や太陽などと、形のある具体的なものであったのが、今朝起きた時の気持ち、昨日の気持ち、などと抽象的で心理的なお題になるにつれ、戸惑いや難しさを感じました。自分の中に眠るものを外に絵という形で表すのは難しさの一方で、人によって表現の仕方が全く違うことに気づきました。十人十色という言葉通り、人それぞれの表現の色があり…と、言葉では言い表せないそれぞれの個性を垣間見れ、非常に興味深かったです。さつまいもも、まず芋選びの時点からそれぞれの魅力的なさつまいもがあり、それを表現する色があり、コラージュも様々と、思い思いに楽しみ、自身を表現できたと思います。今回このような貴重な体験をさせていただき、表現することの楽しさを感じられ、とても有意義な時間を過ごさせていただきました。本当にありがとうございました。

（井成紗子）

先日はとても楽しいワークショップを準備していただき、本当にありがとうございます。出来上がった絵を写真に撮って友達に見せるとこれ本物？と聞かれました！自分でもびっくりな仕上がりに感動してます。遅刻してしまいすみません(T_T)またこのような機会がありましたら、ぜひ参加させていただきたいです！本当にありがとうございました。

ゼミ生の感想をお礼として送ります。本当にありがとうございました。

松尾ゼミより♡

2013年７月２日